

2021年3月期第2四半期 決算説明会 質疑応答概要  
(2020年11月5日開催)

Q1. 2Qの本社コスト82百万の増加の内訳を教えてください。大型PJの増床コストはどの程度でしょうか？

A. (回答者：鳥屋)

大半はリモートワークの環境構築で使っております。その他内訳は、大型PJ用のオフィス設置に約1,000万円強、新規事業への研究開発費に約3,000万円、株式報酬の給付費用に約2,000万円、これら費用とコロナ禍で使わなかった経費との差し引きによって結果8,200万円となっております。

Q2. 今期業績が前期と違い4Qに偏重している要因は増床した大型PJの影響でしょうか？

A. (回答者：柿崎)

その要因もございます。当該プロジェクトは来年の秋口までが1つのマイルストーンとなっており、来年度も業績貢献を期待できる存在です。

Q3. アマノ社との協業は現状どの程度の売上割合になっており、今後どう推移する予定でしょうか？

A. (回答者：柿崎)

現時点でのアマノ社に対する売上額は6億円ほどとなっております。昨年あたりから働き方改革の追い風もあり、アマノ社、当社ともに商談量がかかなり多くなってきております。アマノ社と当社は得意な企業規模に違いがあり、アマノ社は中小の企業、当社は中堅または大企業が得意分野です。今期からはこれらのマッチングを強化すると共に、より効率的に商談対応できるよう互いに準備を進めております。

Q4. コロナ禍となり営業量や営業手法に変化はあったでしょうか？

A. (回答者：柿崎)

新型コロナの流行当初は顧客と距離を置いた時期もありましたが、現在は互いにリモート会議等に慣れてきており、コロナだから営業量が減ったなどはございません。

リモートワークの増加は就業形態の変化などもあり、企業の人事給与の在り方も変わる可能性があります。今後我々のサービスや製品を強化していくことでそういった新しい市場にも対応できると考えております。

以上